

令和2年度 六浦地域ケアプラザPDCAシート\_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

高齢化率は33%と区内でも高く、独居高齢者、高齢者のみ世帯も増加している。核家族化も進み、8050問題に象徴される課題を抱える家族も散見される。子育て世代は夫婦ともに就労しており、子どもを含め、高齢者、障害者等、地域に暮らすすべての人たちが、孤立することなく地域の一員として、自分らしく支え合って暮らせるよう、地域福祉の拠点として、地域ケアプラザの「場」を生かしながら、地域特性や課題を町内会はじめ関係機関と連携し解決していく必要がある。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	■	六浦西地区福祉保健計画の重点項目の一つである認知症について、町ぐるみで認知症や課題を抱える家族を支えあう風土を醸成するため、町内会単位での予防啓発講座、地域の実情に応じた介護予防・認知症予防の自主活動を推進し、元気づくりステーションやカフェ、つどいの場などの設置、運営支援を継続し、自主運営化を支援。また、引き続き、エリアの小中学校の児童生徒に認知症サポーター養成講座を提供し、若いうちから人権感覚教育に積極的に関与していく。
<input type="checkbox"/>	■	認知症予防、引きこもり予防の一環である居場所、子育て中の方と赤ちゃんや障がい児・者の居場所づくりのモデル事業として地域ケアプラザ内で多世代交流カフェ「むうたんカフェ」を展開。引き続きカフェを盛り立てる出演ボランティア、お茶の提供をするボランティアを養成し、各町会など地域でカフェの運営が活発に行えるよう支援していく。
<input type="checkbox"/>	■	困難を抱える家庭への個別支援から、特殊詐欺や消費者被害防止、高齢者虐待防止、成年後見制度の活用などの権利擁護事業を区役所や関係機関と連携して啓発していく。エンディングノート「これから」の周知活用を図り、生きがいと自立した行き方を支援する。
<input type="checkbox"/>	■	ボランティア活動が活発な地域性を活かして、既存の団体の活動を支援し、担い手を増やすなど地域の生活支援を一層充実させる。生活支援体制整備事業の協議体「ささえ愛のつどい」においても、地域特性をとらえた情報収集資料を提供したり、必要とされる支援策を試行していく。
<input type="checkbox"/>	■	地域ケアプラザの部屋を活用した「むうたん塾」を学童・学生の居場所として学習支援、生活支援の場としてさらに定着させる。教員OBや大学生ボランティアと協力し事業を充実させていく。子ども食堂等とも連携し、子育て支援事業としての定着を図る。
	■	第4期地域福祉保健計画の策定を目指し、地域の実情を把握し、金沢区、地区社協、区社協、関係団体と連携協力し、進める。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

前例のない、新型コロナ感染予防との闘いの中で、計画していた事業のうち住民が集まってコミュニケーションを図ることで解決策を探る認知症予防や引きこもり予防などの事業は展開が困難となった。その代わりに、包括の相談事業やむうたん塾などの支援事業には困難を抱える家庭、引きこもり家庭、児童の生活学習への相談が多く寄せられ、今後の地域課題が一層浮き彫りとされた。コロナ禍の早期収束を望むが、人と人とのつながりの大切さを更に生かす工夫をしながら、今後は地域の在り方、福祉保健の拠点としての地域ケアプラザの支援手法もICT環境を活用するなど住民への活用方法の啓発事業も含めて、検討していく必要があるのではないかと感じた。

区からのコメント

コロナ禍で思うような事業展開ができない1年だったと思います。フレンドまつりを始めとする地域の行事も軒並み中止となる中、感染症拡大に十分留意し、対策をとりながらむうたん塾や、むうたんカフェ、サロンの開催などに取り組んでいただきました。

また、ささえ愛のつどいや六浦ボランティアネットワークの定例会も意欲的に開催していただき、情報共有や課題の共有をはかっていただきました。コロナ禍での孤立やさまざまな課題に直面する中で、地域包括支援センターに寄せられる相談事例にも所内職員はもとより区役所とも連携し対応していただいています。

継続実施されている中学校での認知症サポーター養成講座や今年度実施された小学校、地域と連携し供に考えた福祉教育の取組は第4期地域福祉保健計画に向けたモデル的な取組であったと思います。引き続き「福祉保健の拠点」として地域の福祉保健の推進にご尽力いただきますようお願いいたします。